

JIS

溶射皮膜の厚さ試験方法

JIS H 8401:1999

(2005 確認)

平成11年8月20日 改正

日本工業標準調査会 審議

(日本規格協会 発行)

著作権法により無断での複製、転載等は禁止されております。

まえがき

この規格は、工業標準化法に基づいて、日本工業標準調査会の審議を経て、通商産業大臣が改正した日本工業規格である。これによってJIS H 8401 : 1990 溶射製品の厚さ試験方法は改正され、この規格に置き換えられる。

今回の改正では、国際規格との整合性を図った。

この規格の一部が、技術的性質をもつ特許権、出願公開後の特許出願、実用新案権、又は出願公開後の実用新案登録出願に抵触する可能性があることに注意を喚起する。通商産業大臣及び日本工業標準調査会は、このような技術的性質をもつ特許権、出願公開後の特許出願、実用新案権、又は出願公開後の実用新案登録出願にかかわる確認について、責任はもたない。

主 務 大 臣：通商産業大臣 制定：昭和 59.11.1 改正：平成 11.8.20

官 報 公 示：平成 11.8.20

原案作成協力者：日本溶射協会

審 議 部 会：日本工業標準調査会 非鉄金属部会（部会長 神尾 彰彦）

この規格についての意見又は質問は、工業技術院標準部標準業務課 産業基盤標準化推進室（☎100-8921 東京都千代田区霞が関1丁目3-1）にご連絡ください。

なお、日本工業規格は、工業標準化法第15条の規定によって、少なくとも5年を経過する日までに日本工業標準調査会の審議に付され、速やかに、確認、改正又は廃止されます。

溶射皮膜の厚さ試験方法

H 8401:1999

Methods of thickness measurement for sprayed coatings

序文 この規格は、第2版として発行されたISO 2063, Metallic and other inorganic coating—Thermal spraying—Zinc, aluminium and their alloysを元に、対応する部分について対応国際規格を翻訳し、技術的内容を変更することなく作成した日本工業規格であるが、対応国際規格には規定されていない規定項目(測微器による試験方法)を日本工業規格として追加した。

なお、点線の下線を施してある“箇所”は、対応国際規格にはない事項である。

1. 適用範囲 この規格は、溶射製品(以下、製品という。)の有効面⁽¹⁾の溶射皮膜の厚さ試験方法について規定する。

注⁽¹⁾ 有効面とは、製品の用途上の重要な面をいう。

備考 この規格の対応国際規格を、次に示す。

ISO 2063:1991 Metallic and other inorganic coating—Thermal spraying—Zinc, aluminium and their alloys.

2. 引用規格 次に掲げる規格は、この規格に引用されることによって、この規格の規定の一部を構成する。これらの引用規格は、その最新版を適用する。

JIS B 7502 マイクロメータ

JIS B 7503 グイヤルゲージ

JIS B 7506 ブロックゲージ

JIS B 7507 ノギス

JIS B 7515 シリンダゲージ

JIS B 7520 指示マイクロメータ

JIS B 7533 てこ式グイヤルゲージ

JIS B 7536 電気マイクロメータ

JIS H 3130 ばね用ベリリウム銅，りん青銅及び洋白の板及び条

3. 試験方法の種類 試験方法の種類は、次による。

a) 測微器による試験方法

1) 直接法

2) マスキング法

b) 顕微鏡断面試験方法

c) 磁力式試験方法

d) 渦電流式試験方法

e) 触針走査式試験方法

4. 試料 試料は、製品の有効面とする。ただし、製品についての試験が不可能な場合は、これに代わる試験片⁽²⁾を